

旧日本間酒造酒蔵及び釜屋

資料 2

所在地	前橋市総社町総社字屋敷南乙1500番地
所有者	前橋市
構造・形式及び大きさ	土蔵造二階建及び木造平屋建 瓦葺 建築面積 524 m ²
建築年代	大正期
該当する登録基準	(1) 国土の歴史的景観に寄与しているもの

概要

当建物は「ホングラ」「カマヤ」「オロシ」から成り、一体として建てられている。「ホングラ」は土蔵造2階建・切妻造瓦葺、東側「カマヤ」は木造平屋・切妻造瓦葺、南側・下屋の「オロシ」は木造平屋・片流造瓦葺である。小屋組はすべて和小屋である。外壁は白漆喰塗り、「ホングラ」腰及び「カマヤ」東面を押縁下見板張とする。内部は床をコンクリート土間、壁を白漆喰塗とする。規模は桁行33.76m、梁間16.00m、建築面積が523.82m²である。「ホングラ」「カマヤ」「オロシ」は、それぞれ独立した構造となっており、「ホングラ」が桁行25.03m、梁間9.39m、軒高5.60m、床面積は1階235.03m²、2階114.12m²、計349.15m²。「カマヤ」が桁行8.73m、梁間14.11m、床面積は123.32m²。「オロシ」が桁行25.03m、梁間6.61m、床面積は165.47m²である。「ホングラ」の1階は広い土間空間である。梁間方向の中央部4.23mの範囲で両妻まで2階を設け、南及び北側は桁通りまでの間を吹抜けとする。2階で酒母づくり、吹抜下の1階では酒造桶を並べ仕込み作業を行った。柱のモジュールは3尺3寸であり、桶を並べるのに無駄の無い寸法になっている。「カマヤ」には「アライバ」「カマバ」「ヒロシキ」を設ける。洗米、蒸米を行い、「ヒロシキ」は杜氏たちの休憩や寝泊まりに使われた。「カマバ」は床を掘り下げてあり、竈の排気を「カマヤ」東にあった煙突で行ったと伝える。また「アライバ」の給水は主屋の南西にある井戸水を利用した。「オロシ」については、はっきりした用途は確認できないが上述した作業の一連として使われていたと考える。

建造年については、ホングラが大正12年(1923)、カマヤが大正5年(1916)の建造である。オロシは基礎布石等の納まりからホングラ建造後の間もない時期と推定できることから、当酒造施設は大正期の建造とみるのが妥当と考えられる。

写真



酒蔵 正面から見る



左に「酒蔵」右に「釜屋」を見る



オロシ内部の様子



酒蔵内部の様子